



『ピンマイク型・エアマスク』

F A Q

コーベバイオケミア株式会社

〒651-0087 神戸市中央区御幸通5-2-5
御幸通5階
TEL 078-232-4500 FAX 078-232-4700



商品規格情報

『ピンマイク型・エアマスク』(本体セット)

◆商品名:『オックスプロ・エアマスク』本体セット

内容/錠剤 4 錠・ピンマイク型本体 1 個 成分/二酸化塩素&マスキング芳香成分
本体材質/ABS 樹脂 原産国/中国

メーカー希望小売価格:2,100円(税込み)

JAN: 4560118050428



『ピンマイク型・エアマスク』(詰換え用)

◆商品名:『オックスプロ・エアマスク』詰換え用

内容/詰替え用錠剤5錠 成分/二酸化塩素&マスキング芳香成分錠剤
原産国/中国

メーカー希望小売価格:1,785円(税込み)

JAN: 4560118050435



発売元/企画開発

コーベバイオケミア(株)

〒651-0087 神戸市中央区御幸通5-2-5

お客様相談室

電話 078-232-4500

(受付時間 平日午前9:30 から 午後6:00)

Q1:『ピンマイク型・エアマスク』とは、どのような商品ですか？

A :『ピンマイク型・エアマスク』は、花粉対策とインフルエンザ対策との両方に効果を発揮する画期的な“エアマスク”です。

胸元や襟元にクリップするだけのカンタン装着で十分な機能をご利用いただけます。

本品から徐放される有効成分(二酸化塩素)が、花粉、インフルエンザウイルスの表面を構成するタンパク組成(アミノ酸)を酸化→変性させて、本来の機能を変えて制御します。

私たちは、花粉、インフルエンザウイルス表面のタンパク情報によって、特定な花粉によるアレルギーを起こしたり、インフルエンザウイルスの感染をまねきます。(詳しくは後述の「補足:インフルエンザウイルスの増殖サイクル」を参考にしてください。)

Q2:『ピンマイク型・エアマスク』はどのような方にオススメです？

A :使用目的は、花粉対策とインフルエンザなどの感染対策に使われています。

当初の開発目的は、マスク着用の難しい方向けにインフルエンザなどの感染リスク低減を目的とする「エアーマスク」として開発されました。その後販売を始めてから、使用者の皆様よりのお声もあって花粉への効果検証が明らかになり、「花粉対策」+「感染対策」に両用できる新しいタイプの「エアーマスク」として注目されるようになりました。

インフルエンザでの使用は、街中や駅、映画館、電車・バス・エレベーターなど公共の場所で不特定多数の方が多く集まっている場所、その他に、会社のオフィス、学校・塾の教室、幼児園、ホテル、展示会場などでの感染対策にお勧めします。

花粉対策でのご使用もお勧めします。従来の花粉対策グッズのように使用者(人体)に働きかけるのではなく、飛散する花粉に直接作用して、花粉が持つアレルゲンの抗原提示を変化させるため使用者(人体)安全で、眠たくなったりノドが乾いたりする「副作用」や心配な「常習性」が無いことが特長です。

Q3:『ピンマイク型・エアマスク』はどのように作用するのでしょうか？

A :本品の有効成分「二酸化塩素」は塩素でなく酸素のチカラで働きます。

病院消毒やプール殺菌で使われる「塩素(次亜塩素酸ナトリウム)」は塩素イオン(次亜塩素酸 $=OCl^-$)である塩素自体が働きます。一方、二酸化塩素には(塩素)という名称が付いていますが、実際の効果は塩素の働きでなく含まれる「酸素のラジカル効果」で対象を酸化させて安全に効果を発揮します。

また二酸化塩素は液体でなく気体となって働きます。それは、二酸化塩素が溶液であっても錠剤であっても同じで、二酸化塩素ガス(気体)となって空間に緻密に広がり、効果範囲全体の対象物に有効に作用します。

この「酸素のラジカル効果」による酸化作用によって、インフルエンザウイルスや花粉の表面のタンパク組成を「変性」させ、インフルエンザウイルスや花粉などのタンパク情報(私たちが認識する情報)を変えてしまうことで、その有害性を抑制します。

本品の二酸化塩素を放散させる量は独自技術で調整し、約1週間徐放出来るように工夫しています。また、独特な二酸化塩素臭を科学的にマスキングすることでニオイを気にせずご使用いただけます。

Q4:『ピンマイク型・エアマスク』の安全性は？

A :『ピンマイク型・エアマスク』は独自のマスキング処理により、通常の二酸化塩素特有の臭気が抑えられていますので、刺激臭などが気になる方にもご使用いただけます。(※実際には少しだけニオイを残して、使用感を認識できるよう微香性となっています。)また、有効成分は人体に影響の無い極めて低濃度で徐放されるため安心してご使用いただけます。

Q5:『ピンマイク型・エアマスク』の使い方を説明してください。

A :基本的な使い方は次の通りです。

●ご使用方法

1. 本体のキャップを取り外します。
 2. 付属のアルミパックを開封し、錠剤を容器の中に入れた後、再度キャップを取り付けてください。
 3. 上着やシャツの襟元、ネクタイの上などにキャップを上向きにしクリップで挟み、装着してください。
- ※1錠で7日程度を目安にご使用ください。※クリップの向きは自由に動きます。

この他に、お休みの時(就寝時)には、枕元近くに置くなどしてお使いいただくと、就寝時にも有効にお使いいただけます。



また風のある屋外では、フェイスマスクと併用して使うと効果的です。

使い方は、フェイスマスク周辺のお好みの場所にクリップで装着してご使用いただくか、お勧めはフェイスマスクを装着して「アゴ下の内側に本体が収まるようにクリップで装着する」使い方もお勧めです。(詳しくは、→「Q7:マスクと併用する使い方について教えてください。」をご覧ください。

Q6: 錠剤の使用期間が終わった時の交換の目安について教えてください。

A :『ピンマイク型・エアマスク』の錠剤は、安定して有効成分を放散できるように、構造がマトリックス(網目)のように作られています。その錠剤に二酸化塩素発生剤の他、マスキング香料と弊社独自のノウハウを処方してつくられています。そのため、「ナフタリン(防虫剤)」のように一定期間が経つと消えてなくなることはありません。

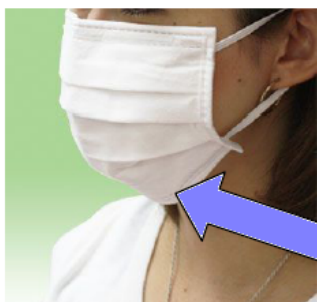
錠剤の使用期間は、1 週間を目安に使用します。分かりやすい錠剤交換の目安は、使い始めてから 1 週間ごとの同じ曜日に交換すると目安が分かり易くオススメです。(製品パッケージには試用期間 5 日と記載していますが、通常的环境下での効果は 1 週間以上持続します。)

錠剤を交換する際に外れにくい場合は、錠剤を収容する容器の後ろ側に小さな穴を設けていますので、ゼムクリップのピンを入れて錠剤を外してください。または、流水で洗い流すと取り外せます。)

Q7: マスクと併用する使い方について教えてください。

A :屋外で風が有る場合などには、『ピンマイク型・エアマスク』から放散される有効成分が風に流されて十分な効果を期待できない場合があります。しかし、インフルエンザの感染リスクについては、インフルエンザウイルスも風によって流されますので、風がある場所では、感染リスクも同じように低下すると考えられます。むしろ注意が必要なインフルエンザ対策は、主に多くの人が集まったり乗り合わせたりする場所(電車/バス/駅待合/空港ターミナル/展示会場/病院待合/エレベータ/オフィス/学級/百貨店・スーパー/など)「一定空間での感染リスク」に対して本品の有効性が期待されるものです。

一方、花粉の場合はその限りではありません。その解決方として、マスクとの併用が好ましいと考えられます。使い方は、一般に市販されるフェイスマスクの「アゴ下部分」に「内向きにクリップ」して使います。この使い方によって屋外で風のある場所での花粉対策効果が向上します。



フェイスマスクを装着して、写真のように「マスクとアゴの間」に内向きにクリップしてお使い下さい。もし、ニオイが強くて気になるようでしたら、マスクの外側にクリップしても効果的です。

また目の前で「大きくセキやくしゃみをする方と向かい合った場合」など、直接飛散するエアロゾルを防御する目的でマスクとの併用が効果的です。

Q8:使用に際しての注意事項はありますか？

A :次の点に注意してご使用ください。

- ◆ 使用中に水が掛からないようご注意ください。
- ◆ 指定の用途以外には使わないで下さい。
- ◆ 本品は食べられません。誤って飲み込んだ場合は大量の水を飲んで吐き出してください。
- ◆ 用事の手の届かない冷暗所で保管して下さい。

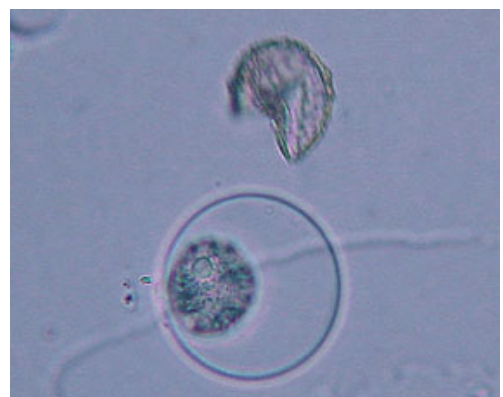
注 意

1. 風の強い屋外では有効性は期待できません。なるべく屋内、室内、車内でお使い下さい。
2. 水が掛かると急激な反応が促進されますので、水が掛からないように注意して下さい。
3. 極度に湿度の高い部屋や雨天の屋外ではご使用にならないで下さい。

Q9:どのように花粉やインフルエンザへはたらくのですか？

【機能 1】花粉へのはたらき

- ・ スギ花粉は外殻の内部には、アレルギーの原因物質となる「アレルゲン(=タンパク成分)」が収納されています。
- ・ 花粉が私たちの粘膜に触れるなどして水分を受けると、外殻が開いて(割れて)中からアレルゲンが出てきます。(右写真は、外殻が割れた直後に飛び出した「アレルゲン」の写真です。)
- ・ この「アレルゲン」を私たちの免疫体系があやまって「異物」として認識すると、次の接触に備えて「抗体」を作って準備します。

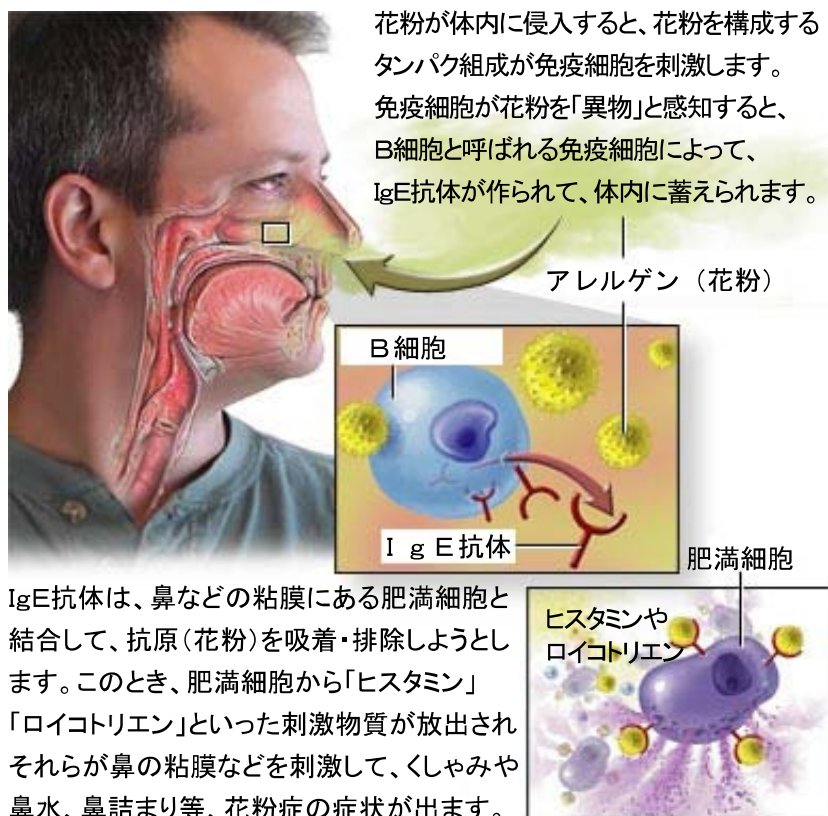


- その後、再度この「アレルゲン」が体内に侵入すると、私たちの免疫体系からヒスタミンなどが分泌されて、体外に「アレルゲン」を排除しようとして、涙やハナ水を流します。これがアレルギー症状です。
- 二酸化塩素分子<ClO₂>は、これら花粉内部に浸透して「アレルゲン(=タンパク成分)」を酸化させて、私たちの免疫体系が「異物」として認識できないように変性させます。その結果、花粉本来の機能が変化してアレルギー症状につながらなくなります。
- ちなみに、私たちそれぞれの免疫力が異なるために、アレルギー症状が発症する場合とそうでない場合の違いを生じます。また初めて「アレルゲン」に触れてから発症するまでの期間も異なります。
- 花粉症は、スギ花粉が多く有名ですが、近年はヒノキ花粉、ブタクサ、イネ科などの花粉症も併発する事例が増えています。二酸化塩素分子<ClO₂>は、これらの原因となる「アレルゲン」を構成するタンパクを酸化変性させます。

私たちの免疫システムは、私たちの体を保護するため、異物(花粉や有害物質)の侵入を避けようとして攻撃します。アレルギーは、異物に過剰に反応する免疫システムの結果として発生し、いくつかのケースでは、無害な物質に対してもアレルギー反応を起こします。

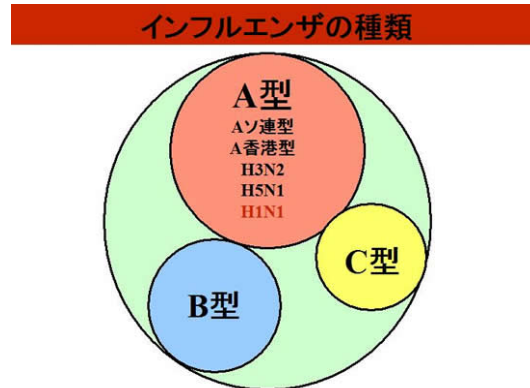
花粉が体内に侵入すると、花粉を構成するタンパク組成が免疫細胞を刺激します。免疫細胞が花粉を「異物」と感知すると、B細胞と呼ばれる免疫細胞によって、IgE抗体が作られて、体内に蓄えられます。

この段階を経て再び花粉が体内に入ると、IgE抗体は、鼻などの粘膜にある肥満細胞と結合して、抗原(花粉)を吸着・排除しようとする。このとき、肥満細胞から「ヒスタミン」「ロイコトリエン」といった刺激物質が放出され、それらが鼻の粘膜などを刺激。くしゃみや鼻水、鼻詰まり等、花粉症の症状が出てしまうのです。



【機能1】インフルエンザウイルスへのはたらき

- インフルエンザウイルスを大きく分類すると、A型・B型・C型に分かれます。多く流行するインフルエンザはA型(Aソ連型・A香港型など)で、A型はB型、C型より感染したときの症状も重くなると言われています。



- A型インフルエンザウイルスは種類が多く144種類に分類され、また変異しやすいことからワクチンの対応が難しいウイルスです。

A型インフルエンザウイルスの144種類の亜型

HA NA	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	H1N1 1918年 スペインかぜ 2009年 新型インフルエンザ	H2N1	H3N1	H4N1	H5N1	H6N1	H7N1	H8N1	H9N1	H10N1	H11N1	H12N1	H13N1	H14N1	H15N1	H16N1
2	H1N2	H2N2 1957年 アジア かぜ	H3N2 1968年 香港 かぜ	H4N2	H5N2	H6N2	H7N2	H8N2	H9N2	H10N2	H11N2	H12N2	H13N2	H14N2	H15N2	H16N2
3	H1N3	H2N3	H3N3	H4N3	H5N3	H6N3	H7N3	H8N3	H9N3	H10N3	H11N3	H12N3	H13N3	H14N3	H15N3	H16N3
4	H1N4	H2N4	H3N4	H4N4	H5N4	H6N4	H7N4	H8N4	H9N4	H10N4	H11N4	H12N4	H13N4	H14N4	H15N4	H16N4
5	H1N5	H2N5	H3N5	H4N5	H5N5	H6N5	H7N5	H8N5	H9N5	H10N5	H11N5	H12N5	H13N5	H14N5	H15N5	H16N5
6	H1N6	H2N6	H3N6	H4N6	H5N6	H6N6	H7N6	H8N6	H9N6	H10N6	H11N6	H12N6	H13N6	H14N6	H15N6	H16N6
7	H1N7	H2N7	H3N7	H4N7	H5N7	H6N7	H7N7	H8N7	H9N7	H10N7	H11N7	H12N7	H13N7	H14N7	H15N7	H16N7
8	H1N8	H2N8	H3N8	H4N8	H5N8	H6N8	H7N8	H8N8	H9N8	H10N8	H11N8	H12N8	H13N8	H14N8	H15N8	H16N8
9	H1N9	H2N9	H3N9	H4N9	H5N9	H6N9	H7N9	H8N9	H9N9	H10N9	H11N9	H12N9	H13N9	H14N9	H15N9	H16N9

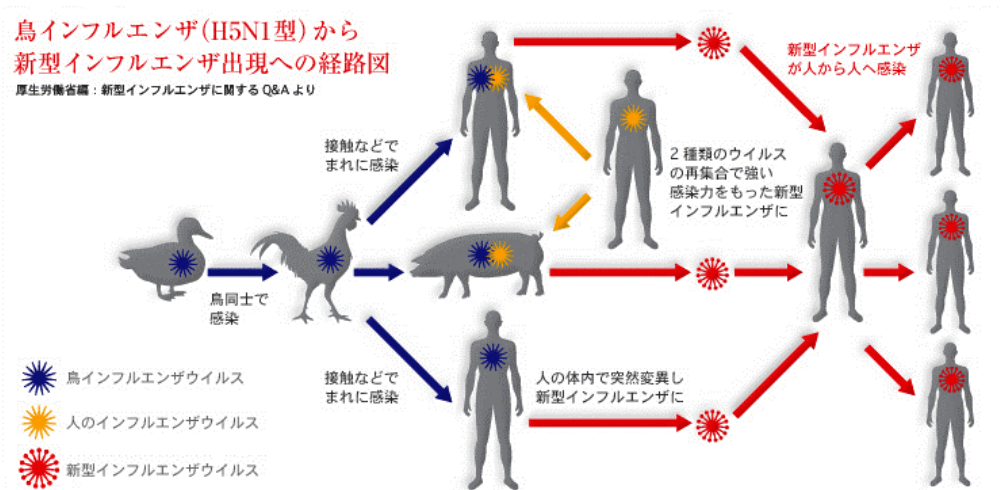
■ 人で新型インフルエンザまたは鳥インフルエンザ発症がみられた亜型

- ヒト感染するA型インフルエンザウイルスは、「Aソ連型」として知られている H1N1、「A香港型」として知られている H3N2、H1N2、H2N2、の4種類です。

この他に H9N1、致死率が60%以上と言われる「高病原性トリインフルエンザ」H5N1 などいくつかの種類がヒトに感染した事例が報告されていますが、感染の次の段階となる「ヒトからヒトへの感染事例」は、これらの伝染性が低かったため、大流行(パンデミック)には至っていません。しかし、年間に数十人が家禽などから「高病原性トリインフルエンザ」に感染して死亡しています。

- このように多くのインフルエンザウイルスを細分する違いは、それぞれが外殻に持つタンパク情報の違いによって異なります。また、この違いによって感染する相手が変わります。

- ・ A型インフルエンザの一例であるH1N1(Aソ連型や 2009 新型インフルエンザ)は、ヒトとブタに感染できてトリには感染しにくく、H5N1(高病原性トリインフルエンザ)はトリとブタに感染できても通常はヒトに感染しにくいというように、インフルエンザウイルスが持つタンパク情報によって感染する相手が分かれる理由となります。
- ・ しかしながら、多くのインフルエンザウイルスはブタへの感染を共有していて、ブタ体内では(ヒト感染する「H1N1」)と(トリ感染する「H5N1」)が共存してそれぞれの遺伝子が融合しながら、新しい種類のインフルエンザウイルスが誕生しています。すでにその中には、ヒト→ヒト感染することが出来る新たなトリインフルエンザの発生が確認されています。



A型インフルエンザウイルスのタンパク情報の違いによる宿主動物の分布

- ・ 二酸化塩素分子<ClO₂>は、これらインフルエンザウイルスが外殻の突起物にもつタンパク情報を構成するアミノ酸分子を瞬時に酸化/変性させて、インフルエンザウイルスの機能を変化させます。機能が変化してしまったインフルエンザウイルスは、万一体内に入り込んできても、タンパク情報が変化しているので、感染することが出来なくなってしまいます。

以上のFAQの他にも、ご質問やご意見・お気づきの点などがございましたら、どうかお気軽に下記の発売元またはお客様相談室までお問合せください。

発売元/企画開発

コーベジオケミア(株)

〒651-0087 神戸市中央区御幸通5-2-5

お客様相談室

電話 078-232-4500

(受付時間 平日午前9:30 から 午後6:00)

2012.02.17